

びふか 議会 です

こんにちは。

2012年11月号

発行/北海道美深町議会 編集/議会広報特別委員会

〒098-2252 北海道中川郡美深町字西町18番地 TEL01656-2-1651

印刷/有美深印刷



シリーズ
笑顔をつなぐ③

美味しい!?

美深中学校での収穫調理体験授業

雇用創出に条例を生かして・・・ 2P～3P
第3回定例会

総合計画に照らして…………… 4P～6P
平成23年度決算審査特別委員会

3議員が登壇 一般質問…………… 7P～9P

第83号

一般会計補正予算〔第6号〕を原案可決

- ほっとプラザ・スマイルの備品購入費
- びふか温泉バス購入費
- 財産の無償貸付 ●財産の取得

第3回定例会

9月20日～27日

(株)アイサイエンス

駅東に工場建設

改正企業立地促進条例の初適用

行政報告

●企業誘致着々と

一昨年来、誘致を進めていた(株)アイサイエンスと(株)ティールム・エス両社の代表取締役社長が8月6日来町、美深町内での立地を公式発表しました。

建設地は駅東工業団地とし、本年10月には工場の建設が始まり、来春6月に完成、7月の本格操業を目指している。

町としても企業立地促進条例に基づく支援をするともに工場建設には、北海道や国などと連絡をとり密接に進める。

●美深道路

明年3月完成に美深道路は、平成

21年から「一般国道40号美深道路」として工事が進められ、明年3月完成見込みとなった。

「名寄バイパス」との接続によって、開通後の名称は「名寄美深道路」、美深スキートの下をくぐるトンネルは「美深菊丘トンネル」と決定した。

●美深高等養護学校間口増

平成25年度から27年度の公立特別支援高等学校配置計画案の中で、道北圏において平成26年度以降3間口増の方針が明らかになり、9月4日付けで美深高等養護学校の1間口増が決定された。

びふか温泉バス更新へ

一般会計 補正予算の 主な質疑

は、故障器の代替をしたい。

質問 地域支

質問 地域情報通信事業工事請負費では、防災情報端末機の新築住宅への対応と解体により返還された機器の再利用はあるのか。

総務グループ主幹 新築される集合住宅及び電柱移設箇所等に対してのもので、新規については町が設置する。また、機器が返還された場合



建設進む「ほっとプラザ・スマイル」
消防署屋上から撮影

き最終的には、地域の中で高齢者の見守り事業を展開したい。

質問 「ほっとプラザ・スマイル」は、

第二町内会のコミセンでもあるが、小さな葬儀は、利用可能なのか。
保健福祉グループ主

24年度各会計補正予算

会計別	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計	45億5,964万6千円	7,905万1千円	46億3,869万7千円
主な補正内容			
地域情報通信事業工事請負費		11,528万円	
一般国道40号名寄美深道路開通式負担金		80万円	
ほっとプラザ・スマイル備品購入費		1,300万円	
町有林路網整備工事請負費		271万円	
商店街活性化事業補助金		1,200万円	
びふか温泉車両購入費		3,200万円	
学校給食センター建設基本設計費		220万円	
介護保険特別会計	4億6,410万円	318万5千円	4億6,728万5千円

幹 小さい葬儀ならそれぞれの部屋を利用いただき、可能と考えている。
〔質問者 藤原・齊藤・藤守・諸岡・岩崎・南〕



2施設の設置・管理に関する条例を制定

- ほっとプラザ・スマイル
 - 美深町農業研修生等宿舎
- 人事案件

- 教育委員の任命
- 人権擁護委員候補者の推薦

明年4月
オープン!
ほっとプラザ・スマイル
農業研修生宿舎

条例制定

▽ほっとプラザ・スマイルの設置及び管理に関する条例

内容 地域住民の連帯意識を高め、コミュニティ活動及び高齢者の生きがいづくりを推進するとともに健康で文化的な地域社会の発展に寄与するための条例で「老人憩いの家管理に関する条例」は廃止する。

総務住民常任委員会に付託し、「原案可決すべきもの」と報告された。

(全員賛成)

▽農業研修生等宿舎の設置及び管理に関する条例

内容 新規就農予定者及び農業実習生等を確保し、本町の農業振興を図ると共に地域振興を推進する事業を支援し、地域の活性化に資するための条例。

産業教育常任委員会に付託し、「原案可決すべきもの」と報告された。

(全員賛成)

財産の無償貸付

- 美深町字恩根内25番地(旧恩根内小学校)
- 貸付ける相手 美深町字恩根内25番地 工藤 貢
- 貸付期間 平成24年10月1日～平成29年9月30日 (賛成8・反対2)

財産の取得

- 取得金額 1千480万5千円
 - 取得先 旭川市 リコージャパン(株)道北営業部
- (全員賛成)

教育委員会委員 (任期4年)



石田政充氏

任期満了に伴う教育委員に石田政充氏の再任に同意

人権擁護委員 (任期3年)



村本修二氏

村本修二氏の推薦に「適任」と答申



阿部和憲氏

阿部和憲氏の推薦に「適任」と答申

第2回臨時会

平成24年8月10日開催され、一般会計補正、下水道事業特別会計補正、水道事業会計補正の各予算について審議され、いずれも原案可決した。(全員賛成)

会計別	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計	44億693万3千円	1億5,271万3千円	45億5,964万6千円
主な補正内容			
町有地 環境工事請負費(駅東)		740万円	
町有地 施設電灯等工事請負費(LED化)		387万円	
町内街灯等 改修工事請負費(LED化)		1,414万円	
ふるさと館前 側溝等改修工事		987万円	
町民広場 外溝工事請負費		3,200万円	
道路整備事業 工事請負費(6線東2号・清水地区)		1,110万円	
町単独事業 工事請負費(小川団地改良)		1,940万円	
教員住宅改築 工事請負費(美小教頭住宅)		1,850万円	
下水道会計	2億7,044万5千円	32万8千円	2億7,077万3千円
水道会計	(事業収益)	8,744万4千円	46万7千円
	(事業費用)	8,450万1千円	174万円

決算審査特別委員会



第3回定例会の会期中に決算審査特別委員会（諸岡 勇委員長）が9月24・25日の2日間にわたり開催された。

審査にあたっては、主要施策評価調書を基に「第5次総合計画のまちづくりの基本目標」に基づき決算審査を行なう手法が取られ、全員一致で認定すべきものと決した。

決算の成果と課題に論戦

平成23年度決算を審査

自然環境と調和する 安全安心なまち「美深」

質問 公衆浴場確保対策補助金の減額理由は、生活環境G主幹 経営者の都合で営業期間が7か月だったため、定額補助ではない。
質問 有害鳥獣捕獲等事業についてはエゾシカ侵入予防の成果はあるが、捕獲に向けた対策も必要では。
住民生活課長 23年度のエゾシカ捕獲数は174頭。捕獲対策としてハンター資格取得補助、箱ワナ設置増など捕獲増に努めたい。
質問 新エネルギー普及事業には木質バイオマスを利用した計画があったが現状は。

企画G主幹 林業経営

安定協議会の中で①放置間伐材の搬出方法②持続的林業経営③搬出に必要な路網整備④搬出コストの問題などを協議している。

質問 太陽光エネルギー等への取り組みは。

企画G主幹 豪雪地域の導入には課題があるが、環境教育の面から、美深中学校建設の中に

活用できないか検討している。

質問 下水道会計への今後の一般会計繰入れの考え方と整備計画は。

上下水道係長 一般会計繰り入れのほとんどは起債の償還で平成42年まであり、独立採算

できるか今後検討していく。整備については長寿命化計画を樹立する。

質問 ちょっと暮らした体験事業の中期体験事業の利用がないが。

企画G主幹 住宅改修で受け入れが冬期になつたため。

質問 埋め立て処分場の延命化を考えるとゴミの分別が不十分では

ないか。

生活環境G主幹 分別

については、リサイクル化の推進と小型家電・衣料の分別も今後進めていきたい。炭化ゴミは水分減量を周知したい。

質問 町内の空き家に危険なものが見受けられる。行政としての解体等の指導は。

施設G主幹 町外所有者に対しては、連絡を取り協議している。危険と判断した場合は継続して解体に協力してもらおう。

質問 フレックスバス、デマンドバス路線以外の高齢者の足対策は。

総務課長 路線外の高齢者についてはスクーパバス利用等もあるが、利便性を考えて今後検討していきたい。

資源をいかす活かに

満ちたまち「美深」

質問 快適住まいづくり事業の現状と今後の考え方は。



エゾシカ進入防止に効果電気牧柵

企画G主幹 商工業活動を推進する面からも有効な事業であり、24年度は45件の申請がある。この事業は24年度までの時限立法であるが新年度についてはこれまでの成果を踏まえ検討していく。

質問 観光行政に力を入れていくが観光協会も体制整備が必要では。

企画G主幹 単に人員増ではなく営業PR活動の体制整備をいかに作るかが先決。

質問 畑作・野菜振興事業の成果と課題は。

農業G主幹 ハウス施設整備事業は労働力確保と人件費に課題、また資材の高騰で計画より利用が少なかった。

露地野菜については種苗経費補助は計画通り進んでいる。

質問 農畜産物等販路拡大PR事業の成果と課題は。

農業G主幹 23年度からは庁内の企画・商工・観光担当と連携強化した中で取り組んでいる。

その中で、食ベマルシェや町外イベントに出店しPRに努めている。もち米や美深牛の美深ブランドが定着しつつあるが、チーズ製品や麦チエン製品の定着化が課題。新たな取引企業も出てきており一定の販路拡大の成果はある。

質問 特産品研究開発事業の現状と販売方法は。

企画G主幹 はるゆたかラーメン、かりんとう、美深牛肉まん、観光協会による「ぴうか

ぼっちゃ」「しらかぼ」「はるゆたかインスタントラーメン」が開発された。販売方法については各商店の責任となつているが商品開発やパッケージのデザインは支援している。

質問 今後のプレミアム商品券事業に創意工夫が必要では。

企画G主幹 当事者自らが創意工夫することが必要と思う。さらなる利用促進策を検討し、今後も商工会からの要望があれば対応していきたい。



美深の特産品を販売（食ベマルシェ会場）

次代を創る人を 育てるまち「美深」

質問 学校でのパソコンを使った授業時間は。

教育G副主幹 週5、6時間の利用。パソコン整備については今後教育的観点から随時更新していく。

質問 山村留学の応募増に対応する住環境整備が重要では。教員住宅を含めた建設計画は。

教育G主幹 老朽化している教員住宅は改築を計画している。親子留学住宅については24年度で新築する。

質問 高等養護学校が1間口増となった。就業の創出など、さらなる支援をすべきでは。

町長 就労機会の創出も検討しなければならぬ。今後は予算も上積みしていく考え。

質問 文化ホール自主事業のPR方法と運営補助の今後の考え方は。

社会教育係長 道新の道北版に広告を掲載している。また近隣町村



住環境整備が待たれる仁宇布親子住宅

に向けてもPRしている。

教育長 運営補助については、費用対効果の観点でなく広く町民に文化に慣れ親しんでもらうかを主眼としている。

健康で明るく 暮らせるまち「美深」

質問 美深厚生病院の外來患者数の推移は。また信頼される病院運営をいかに要望しているのか。

保健福祉G主幹 推移としては減少傾向。町民の病院としての位置づけであるが、専門医の常駐化を町とし

ても要望している。

質問 高齢化が進む中で敬老祝い事業の今後の考え方は。

住民生活課長 今後継続する考えではあるが、高齢化率が40パーセントに近づく中では見直しを検討する時期が来る。

質問 福祉施設の地産地消の取り組みはあるのか。また商店街の活性化に寄与しているか。

保健福祉G主幹 福祉会の食材調達は外部委託。各事業所への町としての地産地消のアプローチはしていない。

決算審査特別委員会



住民生活課長 福祉会の授産施設は、園生が地域のグループホームで生活しており、地域の食材や商店街を利用し地域に貢献している。

質問 成年後見制度の今後の取り組みは。

保健福祉G主幹 高齢者を含めた対象者が増えることが考えられ、親族がなれない場合は行政として対応していく。

質問 シルバー人材センター事業への支援は。

住民生活課長 高齢者福祉の観点で進めていかなければならない事業なので現状の支援としたい。

質問 不妊治療費助成事業の実績が少ない理由は。

保健係長 特定不妊治療1件の実績。不妊という言葉に抵抗があるので「めばえ助成制度」という名称で周知を図っている。まずは対象者の実態を把握し23年度からの事業なので周知に努めたい。電話相談は一人が専門に受けている。

質問 特定健診の受診率向上に向けた取り組み状況は。

生活環境G主幹 未受診者への電話や広報活動に力を入れている。22年度の受診率は52.6パーセント全道で17位。

質問 職員研修事業の実績と成果は。

**みんなでつくる
心かようまち「美深」**

総括質疑

次代を創る人を育てるまち「美深」

質問 青少年の体育振興を基金創設で支援できないか。総合型地域スポーツクラブの今後の支援策は。

教育長 基金創設については、町民や町内各組織の力を借りて一定の方向性を出す時期に来ている。総合型地域スポーツクラブはスポーツ振興と町民の健康増進事業の総合的な中核組織と位置付けている。

質問 スポーツアスリート育成の指導者養成をいかに図るのか。

教育長 地元指導者の育成が課題。現在、上川教育局や仙台大学からの派遣を受け、指導者体制の整備を図っている。少年団活動においても一定の見直しをして資金的な対応、人的な支援体制を充実したい。

自然環境と調和する

安全・安心なまち「美深」

質問 安全な除排雪体制のために、排雪ダンプ補助の対象を自営業者にも広げないと除雪の一貫性がないのでは。

施設G主幹 基本的に営利事業者は認めていない。地域環境に配慮した自主排雪組織等は認める方向で運用していく。

質問 雪堆積場と併設する美深道路終着点の安全対策は。

施設G主幹 終着点には、開発局との協議で拡幅レーンを設置するなど安全に配慮する。

総務G主幹 職員としての基礎的研修と自己研鑽を行い、研修内容は職員全体に報告して情報を共有している。

質問 戸籍電算システムに4760万円かけて整備しているが、このシステムで住民サービスに効果があったのか。

戸籍年金係長 このシステムで生年月日による検索だけで即時に発行でき迅速化が図られ、お客様を窓口で待たすことがなくなった。恩根内支所では恩根内の住人しか取ることができなかったが、このシステムで恩根内以外の町民の戸籍もさらに過去の戸籍も取れるようになった。

役場職員と町民の交流も目的の一つである。

副町長 職員及び町民の意識改革、人材育成、人脈づくりということとで研修事業には力を入れてきた。研修の成果をいかにまちづくりに反映するかが重要。

質問 国際交流事業の今後の在り方は。

企画G主幹 平成26年の交流20周年を節目に、今後の在り方を相手の考えも聞き検討したい。

質問 国民健康保険税の不納欠損額109万円は過去最高で、その内訳と内容は。

収納係長 全体で2名。うち転出で居所不明者1名、もう1名は生活保護受給者になり不能欠損になった。

質問 地域創造元気づくり事業の成果は。

企画G主幹 当初5自治会を予定していたが、応募は2自治会。地域の連帯感を深めるきっかけづくりが目的であり、利用は1回だが、後に繋がるような事業にしてほしい。

一般質問



小口英治議員

- 1 保健・医療・福祉の取組みについて
- 2 国保税とこれに伴う上川広域滞納整理機構加入後の現状について
- 3 地域新エネルギー対応と省エネルギー対策について

問 健康づくりの方策は

答 生活習慣病対策に力点

質問 高齢者等の見守りは、民生委員の他にも、民間の方々（各種検針員・新聞配達員等）との協力も必要だが、どう構築するのか。

町長 今定例会でも地域で支えあう体制作りの補正を計上している。買い物支援等、総合的な体制を構築する。

質問 当町の医療費

町長 医療費の適正化については、特に生活習慣病対策に重点を置いている。病院、温泉行きなどの足の確保もしなければならぬ。具

体的な提案は今後の判断材料にしたい。

方が75%、これでは医療費削減につながらない。

再質問 第5期高齢者福祉計画でのアンケートで、健康、まあまあ健康が70%の中、通院されている

町長 健康な方でも年に数回受診した部分での回答だと思つた。掛け持ち受診に伴う薬剤の無駄等、聞いて

ではいるが、共々に啓蒙しながら削減に向け努力する。

ジェネリックの医薬品の質問もあったが、国・道と一体になつての啓蒙も必要だが更に努力する。

問 省エネ対策はどのように実施するのか

答 太陽光発電はこれからの施設整備で検討

質問 猛暑だった今年には全国的に電力不足が叫ばれたが、当地域では冬期間の方が心配で、北電によると安定供給に必要な予備率は3%だが想定では、1月2・5%、2月1・7%と不足が予想され、極寒の当町では厳しい状況、現在建設中の施設と民間の省エネ対策の取り組みとこれに対する助成等と合わせて節電対策の取り組みをどう行うのか。

町長 夏場の節電目標7%はクリアした。冬期間の北電からの具体的な説明は今後になるが、民間の部分は必ずかしい。現在、進めている「ほつ

と・プラザスマイル」は地中熱利用の暖房と合わせ、研修生宿舎もLED照明を採用する。

現在718基の街灯のうち479基が省エネ型に改修済みで更に補正で63基も実施する。

平成22年度
1人あたり療養費道内順位表

順位	町村名	1人当たりの療養諸費
1	音威子府村	456,927円
2	陸別町	446,777円
3	寿都町	438,956円
4	初山別村	438,213円
5	中頓別町	428,393円
6	下川町	419,024円
7	上川町	423,384円
8	洞爺湖町	407,476円
9	美深町	402,547円
10	小平町	399,682円

(北海道国民健康保険団体連合会提供)



美深町の主要計画

快適住まいづくりの補助金の中、特別改修としてエコリフォームとしての断熱サッシ、太陽光発電等も補助対象として可能なので理解頂きたいし、国・道の状況を見ながら更に研究を深め努力したい。

一般質問



諸岡 勇 議員

1 各種水道事業と給水施設の老朽化

問

将来の水道事業は

答

計画的な施設改善を継続する

質問 地域給水施設は、各水道管理組合などが維持管理し、戸数の減少、高齢化により施設の維持管理が困難と聞くが考えは。

施設設置後30年以上経過している施設も多く機械設備などの修繕に組合員の負担が多額で急務な課題では。事業運営の効率化に施策が必要ではないか。

町長 市街地は、浄水場、恩根内地域の簡易水道のほか各地域にあり、水道管理組合が所管する11施設がある。経営は、水道料金により賄うが、施設の管路故障は指定管理者と町が

共同で負担割合など決めて対応している。

11施設設置時、受益者数434戸で現在は365戸と減少しており、施設の老朽化も進んでいて、30年以上を経過した施設など計画的な施設の改善や改修など経営安定に向けた対応を今後も引き続き進めて行く。

各地域の給水施設の古いものは年次計画で改善、費用負担は地域の管理組合と折半の方向で行っている。

質問 上水道は、表流水に道からの水利権許可が必要だが湧水、地下水の枯渇等対応に課題はないの



簡易水道施設を視察する議員

か。道営との整備計画をどう進めるのか。

町長 現在、道営事業により吉野・斑溪・斑溪高台・紋穂内地区と市街地の給水区域に統合するよう計画を進めている。残る施設は将来の課題解決に従前の対応を継続する。水利権は給水区域

が拡大しても従来どおりでカバーできる。

質問 清水地区は、37年の設置で平成4年に改修されているが、その後20年経過している。課題はないのか。

町長 課題には対応している。改修しなければならぬもの



は今後も改修していく。

質問 有収率が下がっているのは漏水が原因だが、対策が必要ではないか。

町長 漏水調査などすでに対応しているが、有収率を上げるために今後努力する。



藤原芳幸議員

一般質問

1 一般教員住宅整備について



改築が望まれる教員住宅



徐々に整備される教員住宅



好評な整備済み教員住宅

問

2階建教員住宅、
今後の整備計画は

答

計画の準備を進めたい

質問 美深町の教員住宅の現在の管理状況は。

教育長 美深町の教員住宅は小学校前と他の地区を合わせて40戸ほど管理し、総じて好評を得ている。

質問 美深小学校前の2階建教員住宅は老朽化が激しく、特に冬期間の生活には課題が多い。

美深町に安心して赴任し勤務できるよう、どう整備しているのか。また今後新たな整備計画があるのか。

あるのか。

教育長 2階建住宅2棟8戸は入居者から情報を聞き、課題を踏まえながら管理、整備をしてきている。

ただ建築後40年近く経過し住環境としては、不十分だと認識している。必要な整備は継続しながらも将来を見据えた整備をしていく。しかし現在の建物を全面改修していくのは難しいと考えており、将

教育長 昨年校長住宅、現在教頭住宅の改修をすすめている。また美深中学校の改築計画もあり、財源の問題など状況を見ながら具体的に取掛かれるよう計画の準備をしていきたい。

質問 改築計画の準備はいつ頃から取り掛かるのか。

来の改築に向けた検討をしていきたい。

教育委員会管理の住宅一覧（建設年度と戸数）

仁宇布		美深学校周辺		字敷島		美深中学校周辺	
昭和54年	1戸	昭和49年	1棟4戸	平成5年	3戸	平成4年	4戸
昭和58年	1戸	昭和50年	1棟4戸	平成9年	1戸	平成23年	1戸
平成3年	2戸	平成7年	2戸	平成10年	2戸	建築中	1戸
平成5年	1戸	平成8年	1戸	平成11年	2戸	字西町	
平成6年	2戸	平成23年	1戸	大通り北7丁目		平成6年	2戸
平成8年	1戸	建築中	1戸	昭和59年	1戸	字西里	
平成9年	1戸					平成5年	1戸

レポート

観光協会の充実強化を！

積極的な仕掛けづくりへ

事業について
をしました。

総務住民 常任委員会

ル的な観光開発を模
索すべきである。
観光マネジメント
事業は観光協会の運
営体制の強化にとも
ない積極的な展開を
見せているが、今後
は行政と協会の役割
分担の明確化が求め
られる。観光協会に
は人員増などの体制
強化、自主財源捻出
に向けた事業展開も

必要になってきてい
る。きたいっしょ推
進協議会から得られ
た情報を今後の観光
事業に活かし積極的
な「仕掛けづくり」
が必要で観光協会、
商工会、農協、行政
の連携強化を図り観
光事業をまちづくり
の主役の一つとして
醸成させるべきであ
る。

- ▼調査日
8月3日
- ▼調査事項
観光行政の現状と課題
- ▼調査内容
 - ①観光施設の整備状況について
 - ②観光入込客の現状と対策について
 - ③観光マネジメント事業の実施状況について。
 - ④きたいっしょ推進協議会の活動状況について。

▼調査のまとめ
美深観光の拠点である温泉施設は、建築後32年が経過し抜本的な施設改修が必要な時期に来ている。
森林公園、キャンプ場も老朽化が進んでいて早急な対応が必要である。また施設利用者への規則順守を求める必要がある。
仁宇布地区の観光は一定の実績が上がっており、一貫性のある施設整備、トータ



美深観光の情報発信

中間報告書を 提出

実施に賛成

学校給食調査特別委員会

- ◆調査日 7月18日
第6回委員会
調査内容 給食に向けた問題点、可能性についての論点整理。教育委員会へ再度質問提示。
- ◆調査日 8月10日
第7回委員会
調査内容 教育委員会の回答を受け、再検討。
- ◆調査日 9月6日
第8回委員会
調査内容 中間報告に向けた意見集約。
- ◆中間報告書提出
9月27日
第3回定例会
中間報告内容 学校給食実施は賛成するが、実施における具体的事項は今後継続して協議を進める。

委員会

評価を検証し継続の見極めを！

農業振興補助

産業教育 常任委員会

所管する事務
休会中に調査

▼調査日

7月31日

▼調査事項

農業振興対策における現状と課題

▼調査内容

①ハウスの野菜振興補助事業の経過と実績及び今後の課題

▼調査のまとめ

ハウスの野菜等振興事業は、22年度からはハウス本体に加え付属品、機械等にも補助を拡大した（5分の1以内）。ハウ



高所得を期待するハウス野菜施設

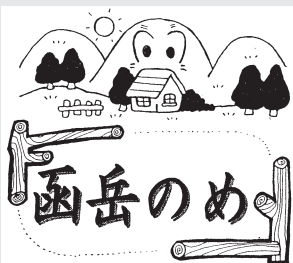
又整備事業では22年度で4棟、23年度で1棟の実績。高収益作物支援事

②農業用廃プラスチックの現状と課題

業では、フルーツトマト、キヌサヤエンドウ、メロン、イチゴ4品の種子購入費は2分の1以内、苗購入費は3分の1以内の補助支援。今後種子・苗の助成が必要。生産者、営農集団、JAの評価等を検証し、継続等については慎重に見極めるべき。

▼調査のまとめ

美深、音威子府で農業用廃プラスチック適正処理対策協議会を設置し、事業を推進。回収は年3回。農業用廃プラスチックについては多額の費用がかかるため、JA・町・生産者が3分の1の負担割合は妥当。環境問題をしっかりとらせるのであれば、課題はあるが、販売時リサイクル料を取れば100%近い回収が見込まれる。農業も事業であることから事業から出た産業廃棄物は自ら進んで処理すべきであり、農村環境の保全と資源の有効活用が一層図られるべきで事業の継続は必要。



定例会の会期中に決算審査特別委員会が開催され、23年度の決算が承認されたが、国保会計の決算額は年々増加している。

これは美深町に限ったことではなく、高齢化社会を迎えた日本全体の問題だ。

長生きすることにより病院にかかる機会が増加したのか、医療が高度に発達し様々な対応が可能になり医療費増となったのか、いずれにしても長寿社会になったことに変わりはない。

町民が元気で長生きしてもらおうと健康診断の受診を呼びかけている。健康診断を通して早期発見、早期治療はもちろん健康に対する意識を高めてもらい医療費の削減につなげたい考えだ。

わが町は対象者の約半数（52.6%）が受診し、全道平均を上回る。かかる医療費も全道平均を上回っている。ちょっと不思議な現象に戸惑うが、この要因は何なのか・・・。

町民が元気でいられる秘訣、妙薬を探してみたいと思う。町民の健康のため、そして財布のためにも。

私からのメッセージ



ちよつと違った角度から

地域おこし協力隊

市村匡史さん (第2町内会)

美深町へは平成12年から毎年ハーブの苗を植えさせていただいてきましたが、その間、東京美深会や地元美深町の皆様方には広くお付合いをいただきました。そうしてお付合いの中でずつと感じて

いたことは、どなたもとても暖かく、そしてふるさとを遠く離れている人も、地元にいる人も、一緒に美深という町が本当に好きだということでした。こちらに住むようになってその理由が少し分かつ

たように思います。自然が豊かで、町の人達皆が大きな家族のように繋がっているの、都会の「隣は何をする人ぞ」というような冷めた感じがないためではないかと思えます。しかし、自然の豊

かさや人の温かさについては、ずつとそういう環境で育ってきた人達にとっては、それが当たり前のごとで、有り難さは感じて居られないのではないのでしょうか。これから地元の人とはちよつと違った角度からも美深という町を見て行ければと思っています。

編集後記

「親しまれる議会広報づくり」を目指した

研修会が8月23日ポールスター札幌で開かれ、当広報特別委員6名と議会事務局員1名が参加しました。

研修会では議会だより発行の意義や制作上の技術的課題など様々な指導、助言を受けました。

早速、広報の表現の方法として、従来、『賛成多数』という表現を、『賛成〇人、反対〇人』という表現に変え、質疑の欄には、質問議員全員の名前を列記する方法をこの紙面から取り入れることにしました。

「限られた紙面の中に、伝える情報をどのように表現するか」課題解決に、一歩一歩取り組んでまいります。

雑感ー今、思うこと

佐藤アサ子さん (第1町内会)

私は留萌生まれで、住んでいた深川から美深へ来ました。美深には勤めていた時の仲間や、趣味で知り合った人達も住んでいて親しみのある街でした。子供も学校に通うようになり、私には

第二のふるさと、子供達には大切な故郷です。その歴史を調べ伝える会が発足すると誘われ、仲間に入れて戴き30年になります。歴史を尋ね、古からの聞き取りや研究集録として残す作業は大変でした

が、会員としてそれに参加出来たことは私の誇りです。そして、嬉しい時に一緒に喜び、悲しい時に励まして下さった人達のおかげと心からありがたく思っています。今年も敬老会にご

招待戴き、楽しんできました。第一町内会は高齢者が多いと思っていました。若い人たちが先頭に立って手をかしてくれ、お世話をして下さるのを見て心強く思いました。

美深に住んで50数年、私なりにまだ出来ることを見つけ続けて行きたいと思っています。